

YAMAKADO NEWSLETTER

号外

2008/11/01

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

『山門老人会』今年も北部湿原復元作業！！



広い面積の刈り払い・除伐作業を終えて（08/11/01）



侵入雑草除去班のみなさん（08/11/01）

動。湿原復元班は、現地に着くなり休みもせず作業開始。おぼつかない会員を傍目に、老人会の皆さんは猛烈な馬力で刈り払い、除伐があれよあれよという間に進行していきました。昼食時には見事に北部湿原北端に到達して頂きました。「やまかど・森の楽舎」周辺の侵入雑草は常々気になりながら人手が無く今日になってしまいましたが、今日の作業でスカッとして頂き入口での「靴洗い」の掲示の裏付けが出来ました。

数日前から今日（1日）の空模様が怪しい感じであった。昨日になって「朝方までは雨後晴」との予報に変わって安堵したものの、文字通り直前まで降雨。が8時過ぎには晴れあがり、何と8時半には作業場所へ移動開始である。山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会のメンバーには、8時半集合と言っていたのに、その時間に始動である。

今日の作業は、「楽舎」周辺の侵入植物（オオバコ等）の除去作業班と湿原復元作業班に分かれて行



北端まで到達した状況（08/11/01）



試行的復元作業 (02/03/21)

湿原のコース沿い草刈をお願いすることとなりました。本会の指示がうまくいかず、湿原内も刈り払いをしてしまう結果となりました。がその部分が見事に再生することがわかり、今日のような北部湿原の復元作業を毎年



2006年の昼食時のみなさん (06/10/31)



昨年 (2007) 作業終了後の景観 (07/12/15)

うかがえたことは私たち会員にとって、今後の「山門水源の森」での活動に参考にさせて頂きたいことが多く含まれていました。今後ともいろいろな情報をお聞かせ頂きますようお願いいたします。

今日は早朝からの力仕事でお疲れになったことと思います。有り難うございました。

15日は町民対象のハイキングですご家族にお勧め下さい。

そもそも北部湿原の復元作業は、2002年3月に灌木化が進行してゆくのに危機感を抱いたものの、果たして手を入れて復元が可能かどうか不安があり、試験的に100m²で実施してその後の推移を観察し始めた。翌年にはノハナショウブやエゾリンドウ等が見られるようになり復元が可能ではと考え始めるに至りました。が本格的に手を入れるとなると、会員だけでは手に余る仕事量で停滞気味でした。2004年5月にシンポジウムを実施するに至って「山門区」の皆さんの全面的なバックアップを頂き、全国から200名余の参加者を迎え成功裏に終了することが出来ました。このことが契機となり2005年11月8日初めて「山門老人会」の皆さんに



コース沿い斜面の刈り払い (05/11/08)

お願いすることとなりました。その結果左の写真にもあるように、昨年の作業終了時には、見事な景観の北部湿原が甦ってきました。

今年の作業の成果が実際に感じられるのは、刈り払い等をした後始末が完了した段階ということになりますが、その日も近いと思います。さらに湿原固有の動植物が復元してくれれば万々歳ですが、それまでには未だ数年は要するだろうと思われます。

それにしても広大な面積が復元できたのはいにも二にも老人会の皆さんのお力に寄るところが大きかったわけです。これだけの面積を仮に会員のみでやっていたら、この後10年は必要だっただろうなと思います。

加えて今日もそうでしたが、休憩時や作業後楽舎での皆さんとの話の端々に、かつての「大池・小池」や「山中越え」等の様子が



作業後の歓談 (08/11/01)